

昼間でも薄暗い森林の中。そこに彼はいた。

彼……身長百八十センチほどの、二十五歳の青年。金色の髪と緑の瞳を持つ彼は整った顔立ちをしており、美形と呼んでよかった。

服装は灰色の開襟シャツに裾の短い黒いジャケット、黒いズボン、黒い革製の指ぬきグラブとブーツ。そして部分部分にプロテクターが付いている灰色の革製コート。

腰に巻いたベルトの左側にはホルダーが付いており、鞘に収めたロングソードを差している。

金髪の美形青年ルーファス・ファグナーは森林の中でなにかを探している様子だ。

いつでも腰のロングソードを抜けるように身構えつつ、森林の中を歩くルーファス。すると、彼の歩みが止まる。右手側を見る。木々の間に獣道があった。

ルーファスはその獣道に入る。獣道をしばらく進むと、彼が探しているものが見つかった。

彼が探していたもの……それは魔物だ。視線の先に、数匹の魔物がいる。

大型犬のサイズがある、ウサギ型の魔物だ。魔物なので当然、普通のウサギではない。

ウサギ型の魔物は二種類いた。白い体毛のウサギ型の魔物と灰色の体毛のウサギ型の魔物。

白い方は頭部に長く鋭い角が生えている。角の色は赤や緑だ。

灰色の方は前脚の肘から先が、鎌状のブレードになっている。

白いのはホーンラビット、灰色のはブレードラビットと呼ばれる魔物だ。

探しているものを見つけたルーファスは、鞘からロングソードを抜いた。

鞘から刀身が抜ける音を聞いて、ウサギ型の魔物たちの顔が一斉にルーファスに向く。

武器を持つ人間を見たら逃げ出す魔物もいるが、ホーンラビットやブレードラビットは違う。

武器を持っていようが持っていまいが関係なしに、人間を見たら襲いかかってくるタイプの魔物だ。

二種のウサギ型の魔物は地面を蹴って、ルーファスに飛びかかってきた。

ルーファスは冷静な態度で、両手で構えたロングソードを振る。ホーンラビットの角が生えた頭部が三つ、宙を舞った。宙を舞った魔物の頭部は、すぐに草が生える地面に落ちた。

ブレードラビットが、ブレードになっっている前脚を振る。

ルーファスはその攻撃をロングソードの刀身で防御した。

二つの刃がぶつかって、火花が散る。

攻撃を防いだルーファスは、右脚を振った。回し蹴りが、ブレードラビットを吹き飛ばす。

ルーファスは右手をロングソードのグリップから離し、腰のベルトの右側に伸ばす。

そこにはポーチが付いている。ポーチの蓋ふたを開け、右手を入れ、なにかを取り出す。

注ぎ口が封印されているガラスの試験管だ。試験管の中身は真紅の液体そそ。

ルーファスは試験管に魔力と呼ばれる特殊な力を流し込み、蹴りで吹き飛ばしたブレードラビットに向かって強く投げる。

試験管は魔物の体にぶつくと、バリーントと音を立てて割れた。真紅の液体が蹴飛ばされたブレードラビットと、その近くにいた二匹のホーンラビットを濡らす。

直後、液体を浴びた魔物たちの体が真っ赤な炎で包まれた。

悲鳴を上げ、のたうち回るウサギ型の魔物たち。しかし、炎は簡単には消えない。

炎が消えたとき、三匹の魔物は黒焦げになって死んでいた。

魔物の数は、どんどん減っていく。ルーファスは無傷だ。無傷で、この場にいたウサギ型の魔物を全滅させた。

ロングソードをブンツと振って刀身に付着した魔物の血を払い飛ばし、ルーファスはそれを鞘に収める。

「大漁だな」

ルーファスは腰のポーチ……亜空間とつながっており、大量のアイテムを収納できるだけではなく、ポーチよりも大きなサイズのものも収納できる魔道具であるマジックポーチから短剣^{ダガー}を取り出す。

そして魔物の亡骸^{なきがら}から素材を収穫する。

ホーンラビットもブレードラビットも、亡骸は錬金術の素材の塊であった。